

Research interests: language learning and teaching beliefs, can-do assessment, learner autonomy, collaborative learning activities, and foreign language education policy

【研究概要】

◆ 専門分野は英語教育ですが、英語以外の外国語教育にも関心があります。英語偏重の日本の外国語教育に疑問を感じたことをきっかけに、最近では、日本の外国語教育政策を研究課題の一つとしています。

◆ 学習者ディベロップメント（学習者要因）も研究課題の一つです。自律して学習に取り組む能力を身につけることで、人は学校を離れたあとも学習を続けていくことができます。そんな自律学習の育成をどのように支援・促進することができるのでしょうか。学習者ストラテジー（学習者が効果的な学習をするために行うこと）、学習者ビリーフ（学習者が言語学習に関して持っている考えなど）、学習方法や動機づけとの関連（特に協働学習の効果に関心があります）などを研究テーマとしてきました。自律した学習を目標としたカリキュラムの開発、授業運営にも携わっています。

◆ 2001年にニューヨーク州立大学バッファロー大学（State University of New York, University at Buffalo）で修士号（Master of Education）を取得しましたが、その際の専攻が英語教育（Teaching English to Speakers of Other Languages: TESOL）。大学院に進学する前には鹿児島県の公立高校に英語教諭として三年間勤務しており、研究の中心は英語教育です。また、日本語教育に携わった経験もあります。



【研究テーマと論文】

ここでは、論文の掲載雑誌等の出典情報は割愛します。出版情報については、Research Mapで確認できます。<https://researchmap.jp/read0165820>（うへのQRコードはこのサイトへ）

① 言語政策

英語偏重型の外国語教育を批判する動きは、明治期・大正期にもありました。

- 下 絵津子（2019）「明治期から大正期日本の高等学校入学試業と中学校の外国語教育：第一高等学校における変遷を中心に」
- 下 絵津子（2019）「1898年全国中学校長会議—英語かドイツ語か—」
- 下 絵津子（2018）「なぜ外国語を学ぶのか—高等教育会議と明治期中学における外国語教育—」

② 学習者オートノミー

自分自身の学習に責任を持つ能力のことです。Henri Holecは“Autonomy and Foreign Language Learning”（1981）のなかで、目標を設定する、学習内容や自己成長の度合いを把握する、学習技術・方法を選択する、習得過程をモニターする、習得したことを評価するといった能力が含まれるとしています。そのように説明される学習者オートノミーと学習活動の関連性などを考察・分析した論文に次のものがあります。

- Shimo, E. (2009). Dynamics of Learner Autonomy: Components and Changes.
- Shimo, E. (2008). Learner Autonomy and English Language Proficiency: An Exploration among Non-English Majors at a Japanese University.
- Shimo, E. (2003). Learners' Perception of Portfolio Assessment and Autonomous Learning.

③ 協働学習

②の学習者オートノミーとは、必ずしも「一人で学習する」ということではありません。人間は社会的な生き物。むしろ、人と協力する活動

を通して学習者オートノミーが促進されると考えられます。

- Shimo, E. (2014). Collaborative Learning Activities and the Motivation for Learning English: An Exploration of the Relationship between the Two in a University EFL Classroom.
- Shimo, E. (2008). Student Empowerment through Portfolio and Cooperative Learning Activities.

④ 教師ビリーフ

学習者ビリーフは外国語習得の過程と結果を左右しますが、教師のビリーフも教育効果・学習効果に影響を与える一因となります。教師が学習者に何を期待しているかによって学習者の最終的な学習成果が異なってくる可能性があります。平成25年～27年は科学研究費の助成（課題番号：25770215）を受けて、日本語母語話者英語教師と英語母語話者英語教師の間で教師ビリーフがどのように異なるかを調査・分析しました。

- Shimo, E. (2018). Teachers' Perceptions of Their Students' English Abilities and Attitudes towards Learning English: A Comparison of English L1 and Japanese L1 Teachers.
- Shimo, E. (2016). English Teachers' Perceptions of Students' Personalities and Attitudes: Comparing English L1 and Japanese L1 Teachers.
- Shimo, E. (2014). Teachers' Beliefs about English Learners at Universities in Japan: A Review of Previous Research and Findings from a Pilot Study.

⑤ そのほか

ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）、ポートフォリオ評価、can-do リストの活用なども研究のキーワードにあります。

- Shimo, E., Ramirez, C., & Nitta, K. (2017). A

- ◆ 所属・職名：教養・基礎教育部門 准教授
- ◆ 研究室：言語教育研究室
下 絵津子 (SHIMO Etsuko)
shimo@socio.kindai.ac.jp



【お勧めの一冊】

『もしも高校四年生があったら、英語を話せるようになるか』金沢優（2017）幻冬舎

- ◆ 中学校英語教師が英語の学習塾に通いながら英語の力をつけていくストーリー。小説を通して、日本の英語教育のさまざまな問題を考えることができます。

Can-Do Framework Based Curriculum in a University-level English Language Learning Program: Course Goals, Activities, and Assessment.

- Shimo, E. & Nitta, L. (2011). Developing Can-Do Check Lists as a Self-evaluation Tool for University-level English Classes.

所属学会は全国語学教育学会、大学英語教育学会、日本言語政策学会、日本英語教育史学会などです。

【個人的に好きな時間】

- ☑ プール！頭をからっぽにして水のなかで前進していく時間が自分にとってとても大切。忙しくてたまにしかいけないのですが、行けた時にはそんな時間にも感謝しながら泳いでいます。
- ☑ 寝る前の読書。毎日何か読んで寝たい。ミステリー小説を読んでそのまま夢の世界にいくと大変なこともありますけどね（笑）。
- ☑ 観劇、温泉、山登り、BBQ…



【研究室に興味のある方へ一言】



自分で調べる、批判的に考える、体験してみる、やってみる、という姿勢を大事にしています。